

の先生方・スタッフの皆様方が声をかけてくださり、これを食べなさい、この写真見て、これ持って帰りなさい、これ飲みなさい、とまるで実家のように感じました。

当時の研究については、思うように結果が出ず自分なりに悶々とした期間もありましたが、今の仕事でも役立つ知識と忍耐力を習得できたと思っています。海外の学会発表なども、研究職を選ばない限りなかなかできない貴重な体験でした（学会で行ったラスベガスの楽しさが忘れられず、「何とかもう一度」と社内のラスベガス出張枠を狙っています）。今の実業務では水晶発振器用のICを担当しているため、当時の研究対象が直接的に絡むということはありませんが、研究時代に扱っていた各種製膜装置・評価装置の知識は、半導体事業で働く者としてとても役立っています。

3年間の研究生生活を経て、最終的に研究者としての進路を選択することはありませんでしたが、応物での経験を活かしながら自分らしく楽しく生きています。

最後になりますが、今後も皆様方の益々のご活躍と応物専攻の発展をお祈りしております。

(旭化成エレクトロニクス株式会社)



■ カロリーはベクトル

学部平成30年卒 春原 稔樹

こってりとした焼肉とさっぱりと甘いアイスクリーム、両方カロリーはあるけれど、同じ種類のカロリーとは思えない。多分、反対方向のカロリーだから両方食べればベクトル和でゼロだよな……

ジンギスカンをたらふく食べた後、帰り道にアイスクリームを頬張りながら、食べ過ぎの罪悪感に抗い、当時の助教と延々とこんな話をしていた。合同研究会という名目の登別温泉旅行で前日入りした札幌での話である。応物は教員も含めみんながユーモアに溢れていた。だからとても居心地が良かった。

高専の情報系学科に在籍していた私は、数値計算やシミュレーションの授業を通して物理学に興味を持った。大学で物理を勉強したいと思った私は三年次編入先としてこの応物を志望した。

「情報知能システム総合学科 応用物理学コース」

情報学科だけど実態は物理。なんともまあ私の需要と合致したような学科じゃないか。そんな風に思った。

でも内部生にとっては違った。「情報知能システム総合学科」。誰がどう考えても情報系と思える学科に入学したにもかかわらず、まさかの応物配属。そんな人がほとんどだった。だからかなのか、だけどなのかは定かではないが、応物の一体感はとても強かった気がする。教員・スタッフがとても気を配っていたから、恒例のイベント、特にスポーツ大会は異様な盛り上がりがあったし、他のコースから異常に孤立し、1学級程度の規模感しかなかったから、絶妙な距離感でみんな仲が良かったと思う。大学院は応物コースのほとんどの学生が応用物理学専攻に進学していた。みんな物理という学問そのものはそうでもなかったけれど、「応物」という組織は好きだったのだろうなと思う。そんな応物での濃密な4年間は、組織と